

平成29年度 学校評価 品川区立 御殿山小学校

評価項目1 (学力に関すること)

重点目標		○基礎学力とは、「児童・生徒が生涯にわたって学び続けようとする態度とそれを支える知恵」ととらえ、自ら進んで学び解決できる子、進んで表現し課題を解決できる子、自信をもって解決できる子の育成を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	国語・算数の学期末の観点別到達度が学級平均80%以上になる。	品川区学力テストの結果から2～6年のうち4年以外はほぼ達成出来ている。理科・社会はもともと平均に取れている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの学習については、火、金曜日の時間を活用する。専科でも、必要に応じて帰りの学習を行っていく。 ・教員間で授業についての情報交換を行う機会を校内研究や研修としてさらに増やす。 ・課題のある学年については経年で追いかけて調査を行うなど、全校あげて重点的に取り組む。
	日々の授業、帯学習、ステップアップ学習(5・6年)、帰りの学習を徹底する。	学校に来たら学習することが当たり前である。という考えで全学年統一していく。帰りの学習が、学校全体で徹底できているのか定かではないか？	B	
②	各種学力テストにおいて、どの学年も各実施教科の到達度が80%以上になる。	現4年が人数減少により2クラスになり、担任の目が行き届かず苦労している様子。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力が低位の児童に対し、放課後学習や補習授業、ステップアップなど個別指導を十分に行えるような時間や講師を充実させる。 ・算数においては、個別カルテが形骸化されつつあるので、各学年で確実に活用する。また、算数だよりなど保護者へ理解を促すなどの広報活動も充実させる。 ・低位の児童への指導は、家庭と連携を取り、帰りの学習などを活用しながら、定着を図る。
	区、都、国の学力テストの振り返りを実施する。1年は、日常のテストで行う。	テストの結果、上と下の差が(二極化)がおおきくならないように。低位の児童への個別指導に配慮を。	B	
	2～6年の区学力到達度調査において、各教科とも9割の問題で区到達基準を上回る。	4年の現状について、特別に力を入れて日常の授業をしっかりと工夫して行ってほしい。	B	
③	児童一人一人のもつ個性や能力を十分引き出す授業の工夫と改善を図る。	教師主導の授業が増えてきてしまっている。児童自身が考えて主体的に学習できるように学習活動を組み立てている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・市民科については、学習内容が地域や保護者に伝わるよう、学年だよりやホームページを活用する。 ・児童が既習の学習内容をもとに自力解決する時間を確実に確保する。また、少人数による話し合い活動やペア学習等で、友達と互いに自分の考えを伝え合ったり、協力して課題を解決したりする学習活動を計画的に取り入れる。 ・学校便り等でも、市民科の取組について学期に一回お知らせしていく。 ・日頃から、若手がベテランの授業を参観できるような時間割設定する。 1か月ごとに、教科部会主催の研修会を年間行事予定に位置付けてもよい。 ・教材研究の方法や工夫するポイントなどを学び合う校内研修会を主任教諭主導で計画する。
	学力調査等では測れない児童個々のもつよさや能力を日常の授業における発言やノート指導などから評価し指導に生かす。	ノートの取り扱いについても改善がみられてきている。	B	
	市民科を活用しながら児童の学習環境を整備し、大人からの影響も視野に入れながら対話的学習を重視し児童の成長を促す。	市民科については、学年でどのような内容を授業しているのか情報をもっとほしい。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成